

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2018年1月～2018年12月データ

▶ 入院実績

項目	件数
新規入院患者数	392
1日平均患者数	84.3
平均在院日数	77.9
在宅復帰率（70%以上）	89.8
入院時重症度（30%以上）	40.8
退院時回復割合（30%以上）	79.5
1患者平均リハビリ実施単位	7.68
実績指数（アウトカム指数）	38.6

▶ 通所リハビリテーション

利用実績	件数
利用件数（1ヶ月平均）	
クイック（1時間～2時間利用）	51
オーダー（3時間～4時間利用）	54
ベーシック（6時間～7時間利用）	67
利用延件数（1ヶ月平均）	
クイック	321
オーダー	328
ベーシック	500
介護度割合（%）	
要介護1	9
要介護2	32
要介護3	19
要介護4	6
要介護5	2
要支援1	8
要支援2	20

▶ 地域医療連携室

項目	件数
退院支援加算件数	393
相談延件数	4,713
入院相談	586
背景要因	1
カンファレンス	1,664
家族	1
職業・住居	9
経済	54
退院支援（転院・入所）	290
在宅支援・維持	1
その他	19
退院支援（在宅）	2,665

▶ 栄養科

項目	件数
一般食	41,831
特別食（加算）	24,160
特別食（非加算）	17,542
濃厚流動食	3,711
通所	5,904
職員食	7,442
入院食事指導	103
栄養サポートチーム回診患者数	116
栄養アセスメント件数	432
実習生受け入れ	4

▶ 紹介患者数

紹介元医療機関名	件数
総合上飯田第一病院	66
名古屋医療センター	89
春日井市民病院	30
西部医療センター	4
大隈病院	32
東部医療センター	51
名古屋第二赤十字病院	6
名古屋大学医学部付属病院	5
小牧市民病院	7
その他の医療機関	78

上飯田リハビリテーション病院

院長 金森 雅彦

➤ 特徴

当院は、リハビリテーションを中心とした病院です。入院時より自宅生活等を想定し、個別リハビリテーションは1日最大3時間を目標に実施しています。個別のリハビリテーション以外でも生活すべてがリハビリテーションとなるように、看護師、介護福祉士もリハビリテーションに取り組んでいます。

医師をはじめとした、様々な職種が多職種協同で患者さまや利用者さまの生活支援に取り組んでいる病院です。

➤ 2019年目標

- ・回復期リハビリテーション病院として、効果的で質の高いリハビリテーションを提供し、早期の自宅復帰、社会復帰を支援するため、愛生会内の連携だけでなく、近隣急性期病院、介護事業所等との連携を密にします。
- ・患者様とご家族が安心して在宅生活へ移行できるように努めます。
- ・自宅での生活が継続できるように通所リハビリテーション機能を高めます。
- ・質の高いリハビリを提供することで、患者さま、利用者さまに満足いただける病院を目指します。

看護部

看護部長 森川 和美

➤ 特徴

病気や怪我などの障害を負われた事で変わっていく今後の人生について、たくさんの職種が一丸となって総合的にサポートしていく事ができるよう、チームアプローチを実践しています。

そして、よりよい状態で、地域、社会、家庭に復帰していただけるよう、最善の看護・介護の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション入院料1

看護：回復期リハビリテーション看護師3名
NST 専門療法士3名

介護：アセッサー 6名

➤ 2019年目標

基本方針

1. 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する
2. 看護・介護水準向上のため、自己啓発・相互啓発に努める
3. 看護・介護職の専門性を自覚し、他職種との連携・チーム医療を推進する

目標

安全で質の高い看護・介護を提供する

通所リハビリテーション

担当看護師長 中島 智子

➤ 特徴

利用者様の生活スタイルやご希望に応じたコースを選択していただくことができます。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による個別のリハビリを中心に看護師や介護士等と連携しながら、利用者様と目標を確認して取り組んでいます。定期的に目標の達成状況を確認して卒業や他のサービス等への移行を推進しています。

➤ 2019年目標

利用者様を積極的に受入れ、充実したサービスの提供に努めます。

地域医療連携室

医療ソーシャルワーカー 佐藤 顕世

➤ 特徴

地域医療連携室は、看護師1名、ソーシャルワーカーが3名で生活問題の相談や各医療機関から転入院の相談を受けています。平成30年の医療福祉相談の相談実績は、延べ相談件数は4713件、うち在宅退院に伴う相談延べ件数が2008件ありました。他院からの転入院に関する相談数は758件となりました。学会発表は、第13回愛知県医療ソーシャルワーカー学会と第2回リハビリテーション医学会秋季大会にて発表しました。

➤ 2019年目標

前方連携として、近隣の医療機関からの紹介数を増やし、紹介から転院までの日数の短縮に努めたいと思います。後方連携では、退院後の生活も見据えた支援と、回復期退院後の生活フォローや、地域での介護予防の取り組みを実施していきたいです。

地域医療連携室は、患者サポート窓口となっており、院内はもちろん、地域からの様々な相談にも対応する体制をより強化し、多職種で連携し、解決を目指していきたいと考えております。

リハビリテーション科

リハビリテーション科科长代行 石黒 祥太郎

➤ 特徴

施設基準：脳血管等リハビリテーション（I）、運動器リハビリテーション（I）

人 員：理学療法士34名、作業療法士27名、言語聴覚士11名

リハビリテーション科は主に、回復期病棟入院中の患者さまに対し、最大限の回復を目指してリハビリテーションを提供しています。

職員には、外来、通所、訪問、デイサービスなど様々な経験を積ませることにより、広い視野で最適なリハビリテーションを選択、提供できるよう育成しています。

また昨年からは地域医療に貢献するため、市民向けにリハビリ講座を毎月開催しています。

➤2019年目標

1. さらなる治療効果（退院時 ADL、実績指数）向上のため、人材育成・業務改善に努めます。
2. 患者さまやご家族に安心していただけるよう、入・退院支援の強化に努めます。
3. 地域医療に貢献するため、リハビリ講座の継続開催や、法人内・外での連携を強化します。

栄養科

栄養科 酒井 晶帆

➤ 特徴

当科は現在管理栄養士1名ですが、今後2名に増員予定となっています。また、給食部門では委託会社と提携しています。

回復期における栄養管理では、リハビリの活動量を考慮した栄養を摂取することが大切です。日々の食事を楽しんで摂取していただくための工夫として、当院では年25回程行事食を行っています。また、食事のみで補いきれない栄養がある場合は補食の導入を行い、様々な面から栄養サポート出来るよう努めています。

➤2019年目標

- ・低栄養（フレイル、サルコペニア）の予防や改善のための栄養管理
- ・外泊中、退院後の食事についての栄養相談件数の増加
- ・食事満足度の向上
- ・喫食率の向上

薬剤部

薬剤部 竹川 真由美

➤ 特徴

適正な薬物療法を支援する為、医薬品の管理・供給、情報の収集・提供を行っています。
患者様に安全で安心してお薬を服用していただくために、お薬を一包化し、わかりやすく服用しやすい状態にすることによって、患者様のコンプライアンス向上に寄与しています。

➤ 2019年目標

- ・ 医薬品が有効に使用されるよう適正使用に努めます。
- ・ 薬剤の多剤投与「ポリファーマシー」軽減に努めます。